学校だより

2月号

令和５年（２０２３年）
１月３１日

横浜市立洋光台第二小学校

梅の花から

副校長　小澤　孝之

１月中旬から一層寒くなり、学校のドラえもん池も連日、氷が張られています。暦の上でも寒の入りで一番寒い時期でもあります。その中でも多くの子どもが校庭へ出て、元気よく体を動かしています。

ドラえもん池に氷が張っていて校舎が映し出されています。

さて、洋光台の地域の方との会合に参加していて、今年は「梅の里まつり」を開催するとのお話を聞きました。今は「春の花」といえば桜をイメージしますが、奈良時代には梅の花を詠んだ和歌が多くあり、今以上に多くの人が愛でていたのではないかと思います。その中でも特に著名な和歌と言えば、「東風吹かば　にほひおこせよ　梅の花　主なしとて　春を忘るな(春な忘れそ)」ではないでしょうか。この句を詠んだ菅原道真は梅の花を好んでいたという話が多く残っており、道真をまつる天満宮の紋に使われていたり、道真にゆかりのある「梅が枝餅」として今でも食べられたりしています。

磯子区も梅とのかかわりが多く、磯子区の木は梅です。また、区内の杉田は梅の名所として有名で、江戸時代には杉田梅林として多くの観光客が訪れたそうです。区内にもそれに関する名前の付いた小学校があります。磯子区内、洋光台地区の公園には梅が多く植えられていて２月にはよい匂いが漂うことになります。また、根岸森林公園にも梅の木が多く植えてあり、ちょっとした林になっています。

校内に目を向けると、正門から入ってすぐの右手、体育館の入り口付近に梅の木があります。５、６月ぐらいには立派な実を４年生が収穫し、梅ジュースをつくっていたのを思い出します。多くの学校で同じような取組が行われていて、私も担任時代に子どもたちと一緒に梅のへたを取ったり、梅の実に穴をあけたりしてジュースづくりをした思い出があります。かつては梅ジュースだけでなく、５年生が取り組んだ米作りも調理して食べるところまでが学習でした。今では、新型コロナウイルス感染症の影響などで、学校での活動に大きな制約がかかり、家庭科の調理実習においても可能な限りの配慮をしながら取り組んでいるところです。

体育館前の梅の枝についた芽。少しずつ大きく、色づき始めています。

最近の報道によると、新型コロナ感染症対策の取組も大きな転換を迎えようとしているようです。これらの情報を正しく受け取り、子どもたちにとって安全・安心な学校を続けていくことができるよう、これからも努力していきたいと思います。

最後になりますが、今年の梅の花、いつ咲くのか楽しみにしていたいと思います。